

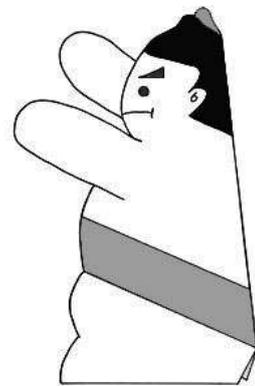
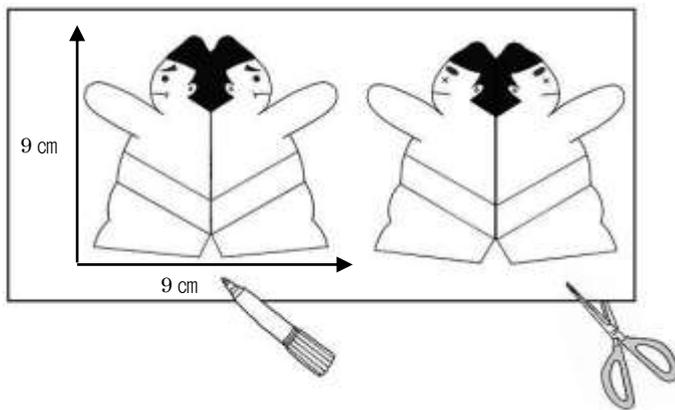
伝統遊具づくり 紙相撲

「紙相撲」の発生は古く、江戸時代中期以後、相撲が大衆の娯楽となり、その人気につられて板製・練り物製・紙製などの相撲玩具が作られました。紙製のものは、1804(文化元)年頃に板製のものと共に流行し、当時の「教訓相撲取草」には紙の絵を切り抜いて立て、息を互いに吹き当てて倒し、勝ち負けを競って遊ぶ姿が描かれています。

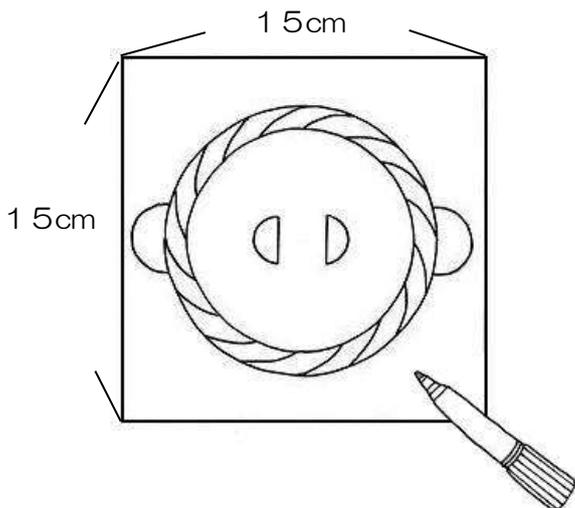
材料：厚紙・割りばし1膳
 道具：はさみ・ボンド・サインペン

《作り方》

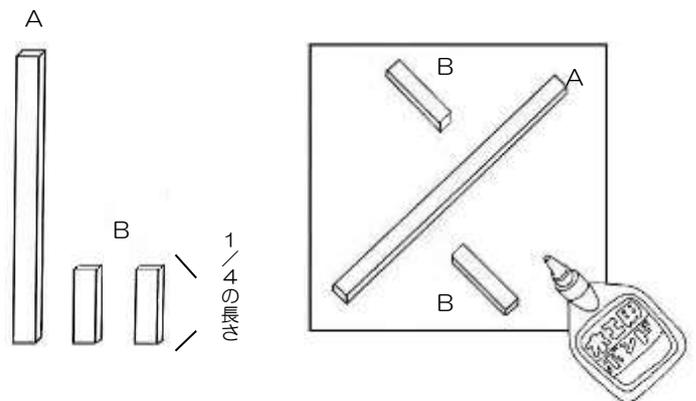
1. 厚紙に力士の絵を二人分描く。
 はさみで周りを切り、中心から折って立たせる。



2. 15cm四方の厚紙に土俵の絵を描く。



3. 割りばしを二つに割り、1本をそのまま(A)、もう1本を1/4に切る。
 厚紙の土俵の裏に、割りばしを図のようにボンドで貼り付ける。



《遊び方》

土俵の上に力士を置いて、両側から土俵のはじをトントンとたたきます。
 力士が倒れたり、土俵から出てしまったほうが負けです。

